

一流ウィンドサーフィン競技者の形態，体力のモニタリング

中村 夏実¹⁾，榮樂 洋光¹⁾，萩原 正大²⁾，笹子 悠歩²⁾，石井 泰光²⁾，山本 正嘉³⁾

¹⁾鹿屋体育大学海洋スポーツセンター

²⁾鹿屋体育大学大学院体育学研究科

³⁾鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

①研究目的

国内における一流ウィンドサーフィン競技者を本学に招聘して，形態や体力を明らかにすることで，ウィンドサーフィン競技におけるパフォーマンスの決定要因や形態，および体力データ等の基礎資料を得ることを目的とした。

②研究成果

A. 実施日：2010年12月14日～17日

B. 対象者：ウィンドサーフィンナショナルチーム選手男子1名，ナショナルチーム候補選手男子1名（2011年度ナショナルチームに決定）および女子1名で行った。

C. 実施内容および成果

本学のスポーツトレーニング教育研究センターに

て，形態，握力，背筋力，ベンチプルおよびベンチプレスの最大挙上重量，等速性体幹伸展・屈曲筋力，等速性脚伸展力，最大酸素摂取量の測定を実施した。

今回は，海上での競技動作をモニタリングする機会が得られなかったが，対象者の1名は，北京オリンピック10位という，日本過去最高順位の選手である。国際的な競技力を有するものであるため，非常に貴重な知見が得られた（彼は2011年プレオリンピックにも出場が決定している）。

現在は，海外のトップレベルの選手のデータ（Castagna et al.2007,2008）との比較を実施している。また各種筋力データに関しては，同じ競技の報告が見られないため，他の競技種目と比較することを検討している。

